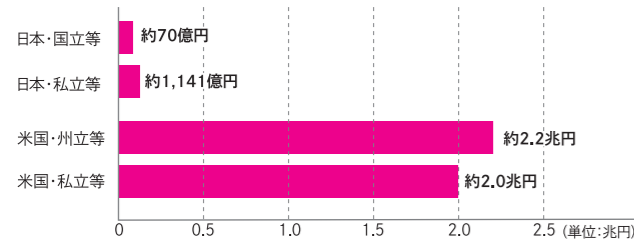


安定した学部運営のために

寄付金収入における日本と米国の比較

下図は寄付金収入額を米国と日本で比較したのですが、その差は歴然としています*1。米国の2017年の寄付額合計は前年度比6.3%増の436億ドル*2。一方、日本の大学は他の財源を確保するか、寄付金額を増やさない限り、安定した大学運営が難しくなっています。

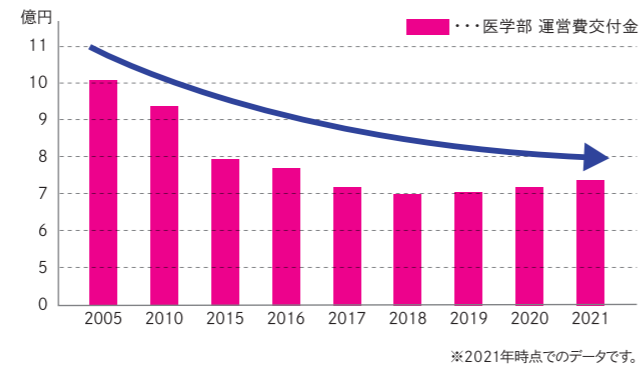
*1 但し、2015年時点での大学生数(大学院生も含む)は米国:1,349万人、日本:280万人
*2 CAE(Council for Aid to Education)調査



(注) 1ドル=120円で換算。米国については、調査対象となった機関(博士授与大学、修士授与大学、准学士授与大学等)に限り、「Public」と「Private」で分類し集計。(出典)日本・国立等:2014年実績 ※文部科学省「平成26年度大学等における産学連携等実施状況について」日本・私立等:2012年度実績 ※日本ファンドレイジング協会編「寄付白書 2015」米国・州立/私立等:2014年度実績 ※1,042機関(州立:545、私立:497)の計 Council for Aid to Education, "Survey Respondents by State Voluntary Support of Education Report for FY2014" For immediate release, January 28, 2015 より国立大学協会事務局作成

阪大医学部の未来と運営費交付金

医学という学問の特性上、学部の運営には多額の経費が欠かせません。しかし、学部の運営に不可欠な国からの運営交付金は、2004年の法人化以来減少の一途を辿っており、非常に苦しい状況です。本学のさらなる教育・研究の発展のため、皆さまのご協力とご支援をお願いいたします。



※2021年時点でのデータです。

未来基金 医学系研究科・医学部教育研究事業にご寄付いただいた皆さまへ

ご寄付いただくと税制上の優遇措置を受けられるほか、本学よりささやかながら感謝の気持ちを示させていただきます。

■感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆さまに感謝の心を込めて、大阪大学総長から感謝状を贈呈します。

■ご芳名掲載

「大阪大学未来基金」webサイト内の「芳名帳」にご寄付いただいた皆さまのご芳名を掲載します。

※公表を希望しない方については掲載いたしません。

■「大阪大学感謝の集い」ご招待

一定期間・一定額以上のご寄付をいただいた皆さまを、大阪大学総長が主宰する「大阪大学感謝の集い」にご招待させていただきます。

■顕彰プレート

累計50万円以上のご寄付をいただいた皆さまには、ご芳名をプレートに記し、大阪大学中之島センター及び大阪大学会館に掲示させていただきます。

5,000万円以上…プラチナ
3,000万以上★★★
1,000万以上★★★
500万以上★
…ゴールド
100万円以上…シルバー
50万円以上…ブロンズ



■税制上の優遇措置

大阪大学へのご寄付につきましては、確定申告を行うことにより、税制上の優遇措置が適用されます。別途お送りする「寄付金領収書」を添えて、所轄税務署に確定申告してください。
※住民税の軽減適用地域等、詳しくはwebサイトよりご確認ください。

個人の皆さま 所得税の軽減 法人税第37条第3項第2号により、寄付金の全額を損金算入することができます。
法人の皆さま 住民税の軽減

未来基金へのご寄付方法

ご寄付についてはクレジットカード、銀行振込、コンビニ払いがご利用いただけます。詳しくはwebサイトより、お申込み方法をご確認ください。

詳しくはこちらから!

大阪大学 未来基金 検索
<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>



寄付金に関するお問合せ
06-6879-8327
広報誌に関するお問合せ
06-6879-5111

大阪大学 未来基金事務局
Email/kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学 大学院医学系研究科・医学部広報室
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
医学部HP: <https://www.med.osaka-u.ac.jp/>



Handai mirai connect

大阪大学医学部ミライ・コネクト

寄付のお願い



大阪大学大学院医学系研究科・医学部
Graduate School of Medicine/ Faculty of Medicine, Osaka University

医学の未来を切り拓くという使命。

医学界をリードする医師を育てることをミッションに、研究と臨床の両方に目を向けた教育と、研究成果の社会還元を志す大阪大学。私たちは医学の未来に貢献する喜びを、皆さまと共有したいと考えています。

医学研究最前線

心筋症研究で国内をリードする自負。iPS細胞を用いた治療法の開発や、専門医育成でも医学界に貢献したい。

循環器内科学 教授 坂田 泰史

循環器内科学ではさまざまな研究を行っており、その一つが心筋症研究です。阪大病院は国内有数の心臓移植手術が可能な病院であるため、全国から重度かつさまざまな症状の心筋症患者が来院されます。そのため我々は「原因の解明」「進行の正確な予測」「薬物治療の適切化」の3軸から心筋症を研究。より良い治療や術後経過を実現することで、病気と



共に生きる患者さんのライフデザインを支援しています。

また新しい治療手段の導入としてiPS細胞を使った研究にも取り組んでいます。例えば患者Aの細胞からiPS細胞を作製し、心筋細胞に成長させた上で患者Aに効く薬の検証に活用するようなことも、将来的に実現できると考えています。さらに阪大の知の共有にも取り組んでおり、他病院の循環器専門医に向けた心臓移植やゲノム医療の研修プログラムを立ち上げ、優秀な人材の育成に貢献。本学医学部生には私の回診に同行する機会を設け、AIでは補えない医療の本質を伝える努力をしています。

大学の医学部の使命とは人材育成に尽きると考えます。そして人材育



成には良い研究・臨床環境が必要です。我々も公的助成を活用しておりますが、保護者さまや一般の方々からの寄付も大きな力になります。どうぞ寄付を通じて阪大の取り組みや成果に厳しい目を向けてください。それが我々の緊張感につながり、より高い成果を発揮できることでしょうか。医学の発展・優秀な人材育成に間接的に寄与できる喜びを、寄付を通じて皆さまに感じていただければと思います。

阪大医学生インタビュー



研究意欲に応えてくれる阪大で、海外も視野に生命の謎に取り組む。

医学部医学科 3年生 原子 祥さん

免疫学に興味をもち基礎医学研究者を志して阪大に入学。1年次から自主的に研究室に通い、MD研究者育成プログラムも活用。医学書は英語の原著で読むなどの努力を重ねてきました。3年次には指導教授のご厚意で、日本人が1人もいないドイツの研究室への留学も経験。留学等の費用については両親からの援助は一切受けず、複数の給付型奨学金を活用しました。いただいた支援以上の成果を出し、社会に貢献していきたいです。



臨床実習や共通試験対策に、学内のシミュレーターを活用。

医学部医学科 4年生 森本 梨花子さん

4年次の半ばから臨床導入実習が始まり、模擬患者との問診やシミュレーターを使った実技に取り組むようになりました。臨床医をめざす私にとって、実践的な授業は非常に楽しいものです。また4年次では全国共通試験(CBT・OSCE)に挑戦します。OSCE(実技)対策としても大学にあるシミュレーターを利用できるのはありがたいです。臨床実習に向けてしっかり学ぶためにも、シミュレーターの種類や数が揃うと良いと思います。

医学系研究科・医学部の最新の成果例と取り組み例

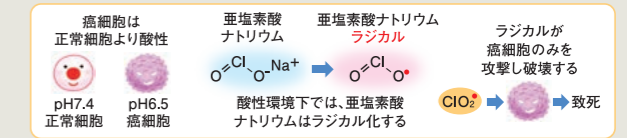
希少難病の治療 ワクチンの治験開始

希少難病である強直性脊椎炎の症状を軽減するペプチド治療ワクチンを開発。従来の抗体療法に比べて患者の経済・身体的負担の軽減につながる新治療になると期待が寄せられており、治験が進められています。



新治療薬を用いた表在性膀胱がんに対する医師主導治験を開始

再発を防ぐ亜塩素酸ナトリウムを用いた治療法を研究。従来薬より刺激性が低く、治療継続率向上が期待されています。



大阪大学感染症 総合教育拠点 CiDER



感染症の脅威から「いのちと暮らし」を守る

COVID-19流行を教訓にCiDERを設置。次なる感染症の流行に備え、科学的エビデンスに基づく総合的な情報発信、予防・診断・治療法等の総合的な研究、感染症対策リーダーの育成に取り組んでいます。



最先端医療 イノベーションセンター

免疫学や再生医療の基礎研究のシーズを先端医療の開発に発展させるため、国内有数の産学連携研究拠点をめざし設立。多様な分野の企業・研究機関と、次世代新薬や革新的医療技術の研究開発に取り組んでいます。



大阪大学免疫学 フロンティア 研究センター



免疫学研究の世界的な拠点の一つである本学は、iFReCを通じて世界最先端の免疫学研究に取り組んでいます。また製薬企業各社と大型の包括連携契約を締結し、研究成果の社会還元を加速をめぐっています。



大阪大学先導的学際研究機構(OTRI) 生命医科学融合 フロンティア研究部門

iFremed

生命医科学の未来を担う若手研究者の育成

適塾のような若手が集う場をめぐらして設立。生命科学、工学、情報学など専門分野の異なる研究者と共に課題に取り組み、基礎研究と実臨床を環流させながら難病の原因解明や予防・治療法の開発に取り組んでいます。



ご挨拶と寄付のお願い

医学部長 熊ノ郷 淳



医学部の教育が全国的に画一化されつつあるなか、大阪大学では多様な可能性を伸ばすため、すべての学生が基礎医学研究に触れることができるシステムを他大学に先駆けて導入しており、また、留学支援にも力を入れています。これらは研究医・臨床医を志望する学生にとって、たくましく才能を発揮して、オンリーワンの存在として活躍してゆく未来のために重要な取り組みです。本学への寄付金は、多様な可能性を育むプログラムや設備導入を中心に、すべて学生のために使わせていただいております。ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。